

技術士 1 次試験に合格して



森若 暖子

(もりわか はるこ)

勤務先

北電総合設計 株式会社

原子力部 原子力土木室

〒060-0031 札幌市中央区北 1 条東 3 丁目 1 番地 1 北電興業ビル

TEL 011-200-0027 FAX 011-261-0028

E-mail h-moriwaka@hokuss.co.jp

■ 専門：建設部門

1. 自己紹介

私は、北海道工業大学大学院(現:北海道科学大学)在学中に、土木工学を専攻しながら環境に興味を持ちました。在学中に学んだことは、土木と環境が双方の良い所を生かしつつ、お互いに共存し、高め合うことが今後の未来に向けて必要な事だということです。大学院修了後、環境調査関係のコンサルタントに入社、その後、転職し、現在は電力関係の仕事をしています。

2. 合格への気持ちの切り替え

私はこれまで、何度も 1 次試験に落ち続け、恥ずかしながら今回やっと合格することができました。

合格した年とこれまで不合格だった年で何が違ったのかというと、ちょっとした気持ちの切り替えだったのだと思います。

不合格続きだった時は、何度も落ち続ける自分に嫌気がさし、「また落ちる」が心の中で繰り返され、いつしか「このままやっていたらいつか受かるだろう」と考えるようになっていました。

毎日毎日 1 次試験の勉強をしていたのに、去年初めて疑問に思ったことがありました。何年も落ち続けていたのに、その瞬間だけ、ふと思えたのです。

それは、「どういうところが技術士はすごいと言われてるのか」、「どういうところで世間から技術士は求められているのか」。幸運にも弊社には、技術士や技術士を目指す方々がたくさんいます。

そこで、思い切って 1 次試験勉強に集中するのをやめ、2 次試験を通過した技術士の方々をしばらく観察してみました。挨拶の仕方、メールの書き方、人との接し方、何気ないちょっとした会話、電話での話し方…っと、書くと自分が気持ち悪い人間に見えてしまいましたが、自分に足りないものを探してみました。

技術士の 2 次試験って、見たことのない世界だけ

ど、論文があって、口頭試問もあって、たくさん書く練習して、たくさん勉強してやっとの思いで技術士という称号を手に入れるもの。今まで 1 次試験のことばかり考えていた私が、一歩先の世界が急に広がった気がしました。

技術者に求められること、技術者として貢献できること。それが私のやりたいことに繋がればなお良い。目に見えないものを分かりやすく文章として人に伝えることができる仕事がしたい。それが、私がやりたかったこと、できるようになりたいこと。それこそが、技術士の必要条件であることに気づかされました。

それからは、落ちたらどうしようとは一切考えなくなり、1 次試験で留まっている場合じゃない、早く 2 次試験の勉強を始めたい。一瞬で気持ちを切り替えることが出来ました。この気持ちの切り替えがなければ、今でも同じ場所に留まっていたと思います。

3. 今後へ向けて

学生時代は環境に関する勉強に没頭し、卒業後も環境に関わる仕事に携っておりました。希望の職種に就けて羨ましがると同級生は何人もいました。

でも、何故か、全力で取り組んでいても、土台が土木の私は、何かが足りない、それが何かが分からない。社会人になってから、数年経っても悩んでいました。そんな時、ご縁があって、今の会社に入社することが出来ました。電力関係の仕事はまったくの畑違いで、一から学ぶことばかりです。

そんな中でも私の思いとしては、偏った考えを持ちたくない、出来る限り広い視野を持ってコンサルとしての役割を果たしたい、その思いは今でも変わりません。いつか、今までのすべての経験が発揮できるよう、技術士という立場で貢献できればと思います。